

No.	性別	区分	意見概要	区の考え
1	女性	在勤	病院での生活と家庭での生活との間のハードルを少なくし、医療と介護の架け橋となしてほしい。	高齢社会、超高齢社会を迎えようとする現在、高齢者が「住み慣れた地域で安心して暮らせる」千代田区の実現をめざしています。 高齢者総合サポートセンターは、在宅で暮らす高齢者に介護と医療が連携したサービスを適時適切に提供するコーディネート機能を備えます。 また、サポートセンターの機能をバックアップする九段坂病院との合築により、福祉、介護と医療が連携した拠点となります。
2	男性	在住	この貴重な地にわれわれ区民に安心と夢それに命を救ってくれる橋頭堡になることだから、一区民として歓迎する。	
3	男性	在住	高齢者・総合病院の一体計画が、福祉行政の起爆剤となる。	
4	男性	在住	庶民的であった警察病院が移転してベッドが減り、区民の味方である命の守り神が身近にできることは大賛成である。	
5	男性	在住	今後24時間体制で区民を守ることは大事なことである。高齢者・弱者・子供らへの配慮救済に戦う体制の短期・中長期の画期的政策を為しとげてほしい。若干の些細な異論を気にしないで、勇気を出して建設に向かって決断してもらいたい。	様々な地域で高齢者の福祉・介護と医療を連携する取組が行われていますが、制度や経営的な課題、人材確保などの課題も多くあります。 都心部でのモデルともなり得る今回の計画は、前例のない先駆的な取組であり、課題も多くありますが、在宅で医療と介護が必要な高齢者やその家族にとっては切実な問題の解決手段であり、本計画を着実に進めていきます。
6	男性	在住	高齢者の施設が徐々にできあがって行くということは安全安心の担保がふえることであるから生甲斐のチャンスが享受できるわけである。病院が千代田区民と一緒に育っていくということはエポックメイキングである。是非勇断を以て実現をはかってほしい。	
7	女性	在住	公会堂等の大規模ホールを建設し、医療施設等は別の場所を検討すべき。	公会堂等の大規模ホールが必要との意見は、多く寄せられています。しかし、現時点における区の認識は、全区的なエリアでは民間施設を含めて充足していると考えています。
8	男性	在勤	当該敷地の特性を活かした整備案となっていない。	旧庁舎跡地の活用策を検討する際の基本的な考え方である「土地の売却はしない」「末永く区民の安心を支える役割を持つ用途とする」「業務・商業用途にはしない」に合致する計画であると考えています。
9	男性	在住	高齢者サポートセンターの整備については、その必要性を認め賛成する。しかし、そのために九段坂病院を誘致することの必然性が確認できないため、併設あるいは合築案には反対。	高齢者総合サポートセンターの「在宅ケア（医療）拠点」機能を確保するためには、内科・整形外科・リハビリ科を提供し、入院ベッドを有する医療機関が必要です。 しかし、千代田区を含む二次保健医療圏（千代田・中央・港・文京・台東）では病床の新設・増加が原則として認められないため、二次保健医療圏内で病床を有している医療機関に移転してきてもらわなければならないという制約があります。また、旧庁舎跡地の敷地条件から、大規模な病院は受け入れられないという制約もあります。 一方、いくつかの病院が区外に移転し、区民の不安もある中で、区民に少なからず利用されている九段坂病院が旧庁舎跡地へ移転改築を要請してきました。これらの条件や制約を満たし、かつ、病院の区外転出を防ぐことにつながることから、九段坂病院との併設を計画したものです。 高齢者総合サポートセンターの機能を確保するために必要な医療機関を公募する方法も考えられましたが、九段坂病院が区の構想を理解し協力をする意思が確認でき、また、病院が区内に留まることになることから、公募は行いませんでした。今回の計画は、区にとって公募するよりも有利な条件で協議が可能であると考えています。
10	女性	在住		
11	女性	在住		
12	女性	在住	①設置を否定する意見ではないが、高齢者総合サポートセンター設置の意味合い、総合施設にすることにどのようなメリットがあるか明確でない。 ②高齢者の生活基盤が医療・介護・見守りの3本柱であることを前提に考察すると、病院をセンターに併設する意味合いは理解できる。しかし、九段坂病院以外の医療機関が、同列に候補に挙げられている説明は聴かされていない。センターにとって揃えるべき医療機能の優先順位は何か？それを満たすための最適な手段が、いきなり九段坂病院の併設に飛躍してきた印象が否めない。 ③「高齢者総合サポートセンターの新設事業」「九段坂病院移転問題」「旧庁舎跡地の活用」は、実はまったく別のコンセプトで成り立っていると考える。発端は跡地活用案策定だったとしても、それぞれが独立した課題であり、なし崩し的に事を進めないよう、慎重な対応を望む。	
13	男性	在住	九段坂病院ありきみたいな企画は好ましくない。	
14	女性	在住	区役所旧庁舎に九段坂病院を誘致するとの区の見解について、経緯が不透明な感じがする。唐突で公平性に欠け、裏取引でもあったのではないかと疑いたくなる。経営状況の良い病院を誘致した方が、区の財政としてもよいのではないか。	

No.	性別	区分	意見概要	区の考え
15	男性	在住	九段坂病院の併設・合築には反対。 住民にとって重要な基礎的自治体である区行政は、住民に対して正確な情報を一元的に開示して、区民の判断を仰ぐべき。 安心安全な区民生活を送れるようにすべき義務がある。 また人生の終焉も安心して地元で送れるような施策を考える時代である。	高齢者総合サポートセンターの構想は、医療・介護の関係者や区民等が幅広く参加している介護保険運営協議会に逐次示しながらまとめたものであり、さらに、在宅医療・介護連携推進協議会においても、高齢者が安心して在宅療養生活を送れるような仕組みづくりの実現に向けて具体の検討を進めているところ。区民代表である区議会においても、高齢者総合サポートセンターについては常任委員会、また、旧庁舎跡地の活用については特別委員会、時間を掛けて審議が行われています。 このたび、整備場所と併設病院を具体化した計画がまとまったので、区民にお示しし、意見を聴取したところです。
16	女性	在住	区庁舎の跡地の活用は何故九段坂病院が来るのかよくわからない。 高齢者総合サポートセンターの具体的な意味が伝わらない。 区の中でも景観の良いところであり、高い建物は建ててほしくない。 具体的に区民の声を聞く場、話し合う場をもっとしっかり行ってほしい。	高齢者総合サポートセンターは、高齢になって医療や介護が必要になっても、できるだけ自宅で暮らしたいという願いを実現するための機能であり、そのためには医療機関を併設することが不可欠です。施設計画を進めていくにあたっては、計画地周辺の景観に配慮していくこととしています。旧庁舎跡地の活用方法については、これまで各段階において、区民の意見を聴取してきたところです。
17	男性	在住	・千代田区内や隣接区には、一流病院が目白押しである。区の土地を定期借地権で格安の地代で貸し出す理由は希薄。 ・高齢者サポートセンターも必要とされる時間的ピークは22年後を境に低下し、将来は他の施設が必要とされると思われる。自由度を制限される施設を今、造るべきではない。 ・千代田区はそれだけでなく遊休地が足りない。 3月11日の東日本大震災後の区民の考え方は劇的に変わった。役所がまず始めることは、変わった区民の意見を咀嚼することと、新たに選出された議員の考えを聴くことである。 ・覚書は、白紙に戻すことをいとわない項目が入っている。躊躇なく一旦白紙に戻すことを提案する。	高度医療、先進医療を提供する病院は数多くありますが、在宅医療を視野にいった病院は多くありません。 今後、高齢化が一段と進み、特に75歳以上の高齢者が増加することが予測されており、医療と介護の機能を充実させることは、本区にとって早急に取り組むべき最重要課題の一つで、そのために高齢者総合サポートセンターを早期に整備する必要があります。同時にその機能を確保するための医療機関を合築する必要があります。 東日本大震災を踏まえた施策の見直しは当然に必要ですが、喫緊の課題については、そうした視点を加えつつ施策を進めていく考えです。
18	女性	在住	庁舎跡地を国家共済組合の病院に賃貸して13階を建てさせて、その一部にわずか40床の老病者ベッドを確保する案は、区にとって不合理不利益な事と思う。	高齢者総合サポートセンターと九段坂病院を合築する目的は、介護と医療の連携を充実させることです。病院が新たに設置する40床程度の回復期リハビリ病棟は、これまで区内にはなく、リハビリ環境を大きく進展させる点で千代田区にとって大きなメリットとなります。
19	女性	在住	①九段坂病院移転ありきだったのではという感想をもつ。 ②本当は老健施設を設置してほしいという意見があったが、本当にそう思う。 ③「多目的ホール」で区民ホールのような中途半端なものを作るのはどうだろうか。 ④区民全体を考えるのなら若者支援も必要で、体育館や勉強できる部屋、調理室、食堂があれば防災上も役立つと思う。 ⑤九段会館も震災で閉鎖になり、今は防災を日本全体で考えているときなので、九段下という場所をどう区民のために生かしていくか再考してもよかったのでは。 ⑥25億から30億の財源はどこから出すのか。 ⑦高齢者センターは、現在の場所で公園を含めて建て直すほうが良い気がする。	①高齢者総合サポートセンターの検討が先行していた状況の途中で、九段坂病院から移転の要請があったものです。 ②老健施設は3か月程度しか利用できないため、在宅の医療・介護を支援する施策を先行する考えです。 ③多世代交流拠点機能は、多目的ホールを設置して多様な区民に活用してもらう結果として、多世代が集い、交流が図られるとの考えです。 ④旧庁舎跡地だけで、すべての需要を実現することは困難であり、他の需要については全区的な観点から検討していきます。 ⑤高齢者総合サポートセンター・九段坂病院ともに、災害時には大きな役割を果たす施設で、整備を進める中でも十分配慮していきます。 ⑥福祉施設や学校を整備するために積立ててある基金の活用も含め、区民サービスの低下を招くことのないよう財政状況に応じて財源を確保していきます。 ⑦高齢者センターの機能を取り込むことにより、徐々に要介護度が高まってくる高齢者に対して、状態変化を早期に発見し、適切な対応をとることが可能となるメリットがあると考えています。

No.	性別	区分	意見概要	区の考え
20	女性	在住	・3点あげられている「病院」の新規実施事業例に「訪問診療部門」を加えること。 ・区は区民におもねることなく「病院」の訪問診療利用者の条件を明確にさせること。 ・新設する建物は、外観のデザイン料に予算を使わず、その分を基礎構造に十分費用をまわし、躯体をしっかりさせ、少なくとも100年使用可能な構造物にすること。 ・各課がばらばらにやるのではなく、同根の問題として知恵を結集して、より良い制度仕組みをつくりあげてほしい。	・九段坂病院の新たな取組として、（仮称）総合診療科を開設して在宅療養支援機能を確保し、区内診療所等と連携を図り、在宅療養者への支援を行うこととしています。 ・訪問診療利用者の条件については、医師会等と協議を行っているところです。 ・新設する建物は免震構造等により耐震性を確保し、少なくとも50年間使用可能なものとします。 ・本施設の整備を進める中で、高齢社会へ対応するための施策を総合的に展開するための執行体制等を整備し、区内に長く住み続けている人の安心に繋がるよう努めていきます。
21	不明	在住	現在計画を中心にして、中部日本放送、清水門周辺を健常者用にプール・フィットネス・サウナ・ジャグジー等全天候24時間型の運動施設と上階には展望・憩いの喫茶・レストランを設けて観光化してもらいたい。九段会館には区民ホールのものができれば、区民にとっても大変有意義であり、千代田区の新たな目玉になる。これらを段階的に民間の力も活用して実現してもらいたい。	本計画は速やかに実現をめざし、隣接する千代田会館や九段会館との関係については、状況の変化を注視しつつ、将来的な課題としていく考えです。
22	女性	在住	①入札で、区の施設と同居する病院を決めるという観点が必要ではないか。1/2の減額は必要ない。 ②既存建物の解体と概算費用について、 1. 千代田区の費用で、解体（概算費用：4億6千万） 2. 両者負担で、設計（概算費用：4千万） 3. 両者負担で、施設建設工事と監理（概算費用：20～25億） *総計25～30億円 区は、このうちの1と、2・3の2割で約10億を予算計上するのか。 ③神田神保町の「高齢者センター」と西神田庁舎の「ちよだボランティアセンター」「シルバー人材センター」「千代田区社会福祉協議会」の建物・土地は、どのように活用されるのか。 ④地上部分の解体除去から建設工事に着手するまでの間は広場として整備し活用するとしているが、直ぐ建設工事に掛かることは無いのか。	①高齢者総合サポートセンターの「在宅ケア（医療）拠点」機能を確保するためには、内科・整形外科・リハビリ科を提供し、入院ベッドを有する医療機関が必要です。また、千代田区を含む二次保健医療圏（千代田・中央・港・文京・台東）では病床の新設・増加が原則として認められないという制約や、旧庁舎跡地の敷地条件から生じる病院規模の制約があります。区としては、高齢者総合サポートセンターを整備することを第一に考え、様々な状況を勘案し本計画を決定しました。 ②総計25～30億円は、区が負担する見込みの概算経費であり、この他に国家公務員共済組合連合会が負担する経費55億円程度を見込んでいます。 ③神保町地区の高齢者施設整備を含め、今後、活用方針を検討していきます。 ④今後のスケジュールにより広場としての利用可能期間は変わってきますが、一定期間、安全性を確保した利用は可能であると考えています。
23	女性	在住	リハビリに力点を置いた病院とサポートセンターの開設は大歓迎。 歯の健康維持の指導、歯科検診などについて、サポートセンターでも何らかのサポートをやっていただきたい。 病院設備にバスルーム、食事はラウンジで取れる、洗濯サービスを期待したい。	本計画により、急性期・回復期・維持期を通じたリハビリ提供体制を築く考えです。 歯科については、歯科医師会とのネットワークの構築に向けて、協議中です。 その他については、高齢者総合サポートセンターの趣旨や病院の経営方針等を踏まえ整備の協議を進めます。
24	女性	在住	病院の専門外来に物忘れ外来の開設。 高齢者総合サポートセンターの在宅（医療）ケア拠点機能として療養通所看護の整備。 多世代交流拠点に認証保育所の誘致。	物忘れ外来については、九段坂病院に検討を要請すると同時に、区としても相談体制の検討を進めます。療養通所介護については、ニーズ把握も含め検討します。認証保育所を誘致することは、スペースの関係で難しいと考えています。
25	男性	在住	高齢者センター機能の移転に反対。「高齢者の生きがいや健康づくりの場として整備する」とあるが、具体的にどんな企画があるのか。現在のセンターの建物は少々狭小ではあるが、大震災にも十分に耐え、何らの損傷も発生しておらず、敢えて移転しなければならない理由が見つからない。 健康な高齢者が集う施設と病院との併設は、院内感染などの懸念も無視できず、あまり望ましいものではないと思う。九段坂病院と併設するのであれば同じ医療・介護を担う保健所を是非併設してほしい。	現在の高齢者センターは、建物が老朽化していることに加え、7階建てで使いにくいと判断しています。本計画では、有効スペースを1.5倍程度に拡大するとともに、2層程度にまとめる考えで、高齢者センター機能を介護予防の観点から見直す方針です。設備や機能の詳細は、有効性や施設全体のバランスを勘案し、設計を進める中で決定していきます。 なお、千代田保健所は、平成22年9月に現在地（九段下）に移転したところです。
26	女性	在住	施設に、区内で介護関連職に在職されている方の更なる知識啓蒙の場も提供してほしい。	「高齢者ケアに関する人材育成・研修拠点」機能のプログラムを検討する中で、考慮していきます。